

## 【実践報告】

# “覆水盆に返す” 教育的表現環境 —触法障児との芸術活動から導く主体的な表現—

福岡 龍太\*

## Educational Environment for “Returning Spilled Milk”: From the Proactive Artistic Expression of Special Needs Children in Trouble with the Law

FUKUOKA Tatsuhiko

### はじめに

近年、児童・生徒に対して広範的な学習指導要領、特に表現教育の分野において、「主体的な学び」等の子どもの自発的な意思表示を尊重する動きが活発化しているように見受けられる<sup>1)</sup>。筆者が理解する「主体的な学び」とは、指導者の計画に基づいた内容や指導者の誘導による学習の実施にとどまらず、特に幼児に多く見られる明治から大正にかけて展開された「恩物」の使用法から解放された「遊び」<sup>2)</sup>、すなわち保育のいとなみの中心で幼稚園教育の基本<sup>3)</sup>にもなっている「幼児の自発的な活動としての遊び」と同一線上にあるものと捉える。そして“遊び”と“学び”を対極のものとせず、双方を表現活動の主要骨格と認識する。そこで社会のルールから逸脱してしまった触法障児（精神、発達障害等の疾患が原因で罪を犯してしまった未成年）に注目をした筆者は、彼らとの芸術活動を通して主体的活動の源流である「自発的な遊び」を引き出すスタート（源泉）に立ち返ることにした。もし彼らが遊びに熱中できるようになれば、豊かな人生形成につながる社会復帰が見込めるかもしれない。純度の高い主体的活動を発掘することが、この実践活動に至った動機である。

### I 実践活動に至る経緯・目的と問題意識

#### 1. 社会復帰を支援する社会福祉施設について

愛知県名古屋市に活動拠点を持つ「くらし応援ネットワーク」（以下「くらし」）には、世代も障害の特性も異なった多くの障害者が生活をしている。施設利用者は、昼間のみ施設を利用する者、昼間の施設と夜間のグループホームを利用する者に分けられるが、おおよそグループホームまで利用している者が多数を占めている。多様な境遇を持った利用者が集うこの施設では、目的別に支援をカテゴライズしているが、その中でも極めて稀な特徴を持った支援部門が存在する。そこは、犯罪歴のある未成年の社会復帰を支援することに特化した部門である。同様の施設は全国的にも数は少なく、一般的な障害者支援とは一線を画す。

利用者である未成年は皆、何らかの障害を持ち併せていて、更生施設から出所した経験を持っている。若くして傷害や殺人未遂、窃盗や詐欺などを企ててしまい、補導や逮捕歴がある利用者の中には、幾度となく犯罪を繰り返す者も存在する。彼らの社会復帰を目指すための施設として、「くらし」では市内に一軒家を用意し2016年4月より支援を開始した。この一軒家は5LDKの2階建てで、南側には約20坪ほどの庭がある。敷地周辺には1メートルほどの高さの柵が張り巡らされているが、決して逃亡を阻止するための塀ではないため、見晴らしは良好である。関係者は、この建物を地名でもある「三ツ屋（みつ

\* 新潟青陵大学短期大学部 (Niigata Seiryō University Junior College)

や)」(以下「三ツ屋」)と呼ぶようになった。

## 2. 支援の目的

筆者は2016年秋より、触法障児の学習及び社会復帰を目的とした支援に携わるようになった。支援プログラムを立案するために運営側から求められたことは、参加者が概ね16歳前後の男女、国籍も様々であるため、まずは言語活動を優先した国語と、その合間に絵を描くなどの表現活動を行ってほしいということであった。そこで筆者は、支援時間を区切ることなく彼らと共に過ごす場に、字や絵が描けるスペースを設けて、2つの教科を同時に行える活動がしたいと申し出た。椅子に座らせて言葉を中心とした講義を行うことは、よほど彼らとの信頼関係が構築されていなければ実現しないと判断したからである。筆者や職員も参加者と同等に、表現者として活動しながら交流を深めることを支援の第一歩と定め、その環境の中で参加者が表現しようと言葉を発すること、何か描こうとペンを持つことなどの自発的遊びに向かうきっかけを見逃さないことを本研究の目的とした。そして、そのきっかけから表現意欲が形となって表れた時、それは本物の自発的な遊びであり、のちに主体的な学びにつながる期待が持てる。このプログラムには、自分の未来を楽しく描く会という意味を込めて「楽画会(らくがかい)」と名付けた。

## 3. 問題意識の所在と記録方法

2016年9月16日にスタートした三ツ屋における支援活動は、少年3名と職員2名と筆者の計6名で始まった。すぐに利用者は増えていったが、残念ながら2名の少年は1か月ほど経過した後、それぞれ再び更生施設に戻ってしまった。

翌年2017年1月には新たに3名(男子2名、女子1名)の利用者がプログラムへ参加してきた。この3名はたいへん社交的であるが、中でも際立っているのは剛(つよし)である。外国籍(南米)の父の影響で欧米人のような顔つきをしているが、挨拶も受け答えも、優しい言葉がけも日本語でできる。しかし知的障害の影響が言葉の理解が苦手で、こだわりや将来に対する夢のようなものはないようだ。筆者は、ただひたすら明るい性格の剛に焦点を合わせ

観察することとした。剛の自発的表現を引き出すきっかけを探すという目的に到達するためには、どのように接触すればいいのだろうか。

本来、実践報告の執筆にあたっては、現状から問題意識を明確にして、仮説を基に実験・観察等により問題解消へ向かう有用な結論へと導くのが望ましいのかもしれない。しかし、障害者芸術支援活動そのものが個の対応に特化しているため、平均値や一般的な認識、行動予測等が出せず、仮説を立てることが極めて困難である。よって、本実践報告では従来の論述の順序から逸脱し、実験・観察等、実践活動を参与観察法による記述を先行させ、そこから問題点を追究するといった順序で論じていく。なぜならば彼らの主体的な表現活動の表出を目指すには、まずは関わってみなければわからないからである。

## II 実践内容

### 1. 実施計画

①「くらし」が管理する施設「名称：三ツ屋」において、触法の恐れがある障児及び犯歴のある障児を対象とした社会復帰支援プログラムを実施する。

②芸術活動を中心とした支援プログラム「楽画会」を以下の条件で毎月2、3回程度実施する。

③法人職員数名と筆者が担当するが双方とも楽画会参加者と同様に制作者として活動する。食事等の生活面においては生活介護支援者として接する。

④10時より16時までを活動時間として、昼食時も活動の一環とする。

⑤間取りは1階に8畳のリビングキッチン、主となる6畳の活動部屋、8畳の和室、2階に6畳の和室が3部屋。

⑥1階活動部屋のテーブル(1800×1800)には白い厚紙を全面に敷き、10色のマジックを各5本ずつ置く。1階和室はスポーツ用具の保管と休憩スペース、2階の和室は集中して作業をしたい時の個室として使う。室内の照明は常に点灯しておく。昼食時の座席指定はなく、準備から後片付けまで各自で行う。麦茶は常時用意して自由に飲める。

⑦観察対象者：剛(プログラム参加時16歳)男子軽度知的障害(区分1) 数罪

⑧プログラム実施及び観察期間は2017年1月より2018年8月まで。

\*実践報告内の敬称は略すこととする。また氏名や名称の表記に関しては許諾済みである。

## 2. 実践報告

2017年1月13日 晴 室内気温19℃ 室内湿度46%  
室内気圧1000.4hPa

三ツ屋が設備工事のため、関連施設の教室を使用して11時に楽画会を開始する。何度も楽画会に参加している梅（女子）に加えて新人の剛ら3名と楽画会を行う。さっそく初対面の梅に対して剛がちょっかいを出す。剛は参加者全員と雑談をしているうちに意気投合するが、特に制作することなく一日が終わった。

1月27日 晴 室内気温21℃ 室内湿度51% 室内気圧1016.6hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。今日の担当職員は女性S。剛と梅に加えて久しぶりの参加である原（男子）の3名で楽画会を開始する。男子2名からの要望で筆者が手や腹にタトゥーのようなペインティングをする（1時間ほど）。剛は梅と交流を深めようと優しい言葉をかけ続けていた。その言葉に嫌悪感を示さない梅を見て原が嫉妬する。今日も終始、男子2名は性的話題で盛り上がっていた。



記録画像1 絵柄と描く場所は彼らが指定する

5月26日 雨のち晴 室内気温24℃ 室内湿度59%  
室内気圧997.1hPa

三ツ屋から徒歩5分の場所に5月15日に系列施設であるパン屋が開店した。筆者はそこへ9時30分に到着する。パン屋の中から剛が飛び出してきた。剛を出迎えてくれた。10時に三ツ屋へ移動する。剛ら4名で楽画会を開始する。前回同様、女性職員Sが担当。梅が近いうちに三ツ屋を卒業して就職するらしい。

パン屋の責任者より「剛の手作りクロワッサン」としてPOPを楽画会で制作するよう指示が出ているようだ。さっそく、みんなでネーミングを決めた。「剛のセクシークロワッサン」、「剛ワッサン」、「剛のホットクロワッサン」など、様々な意見を出しながら午前中を過ごした。午後、剛はSと雑談をして16時に楽画会を終了した。

楽画会に参加するとき以外の剛はパン屋で丁寧な仕事をしているらしく、特にクロワッサン製造の評判がいい。



記録画像2 5月26日の楽画会の様子

6月9日 晴れ 室内気温25.4℃ 室内湿度23%  
室内気圧1000.4hPa

筆者は9時45分に三ツ屋へ到着。庭の手入れが行き届いている。絵画制作の得意な伊藤、剛ら4名と職員Sで楽画会を開始する。今日は関連施設のパン屋より、サインボードを参加者全員で制作してほしいと依頼された。

参加したばかりの女子の様子がおかしい。到着したばかりなのにグループホームに帰りたいと申し出た。剛が散歩に誘い出し、帰ってくると「昨夜彼女は自殺未遂をした」と報告があった。多くの車が行き交う夜の幹線道路に飛び込もうとしたらしい。落

ち着いた女子を確認し、気分転換のために11時からみんなでパン屋へ遊びに行くことにした。各自好きなパンを買い、そこで食べ、11時45分に三ツ屋に戻った。安心した剛は好きなダンスユニットの映像をスマートフォンで見ながら踊りだした。

昼食後、再び女子は具合が悪くなり2階で休み、剛が付き添ってくれた。そのまま16時に楽画会を終了する。

剛はパン屋で働き始めたが、職員から作るように指示されても“やる気”を起こさなければ絶対に行動しないという。楽画会で筆者が剛に何か依頼することはない。そのため、描くなどの表現活動は今のところ全く行わないが、共同生活をするためのルールを守ることや他者を気遣うことは少しずつできるようである。美術的な活動を剛に望むならば、この先もっと生活が安定するまで待たなければならない。しかし、今日初めて見せてくれたダンス（身体表現）は自発的であったため、大きなきっかけと捉えるに十分値する。

**7月7日 快晴 室内気温29℃ 室内湿度36% 室内気圧1002.7hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着して、朝礼ののち楽画会を開催した。剛は5分後に走ってやってきた。今日は近日中に出産する身重の女子が初参加する。体調を気遣って無理のない活動をするように、職員から本人に指示が出された。午前中は女子を気遣い、剛が付きっきりで身の回りの世話をしてくれた。

昼食後、筆者は剛と一緒に食器を関連施設へ返却しに行く。その施設に着くと責任者（女性）が剛に対して、かなりきつい口調で服装の乱れや態度について叱った。

食器を返却した後、パン屋に移動し少し休憩をする。責任者に叱られたことに納得がいけない剛は「なんで俺があんな言い方されなきゃいけないのか、わからん」と声を荒げていた。13時30分、剛と共に三ツ屋に戻り活動を再開する。剛は突然ペンを持ち、好きなダンスユニットのロゴを描いた。そしてすぐにまた2階で休んでいる女子の世話を再開した。そのまま15時30分になり楽画会は終了した。

責任者に叱られている最中、納得できない剛の表情がみるみるうちに曇った。そして責任者をにらむようになったため、急遽筆者は気分転換させるため

剛をパン屋へ連れて行くことにした。きちんと挨拶をして、昼食を作ってくれたことに対して感謝の意も表した剛の振る舞いは、叱られるような態度ではなかった。過去の剛の行いを正す意味で、隙を見せず厳しくしているのだとすれば理解もできるが、今日の剛の態度からすると少し気の毒に感じてしまう。

**8月5日 晴 室内気温24℃ 室内湿度66% 室内気圧1000.6hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着。女性職員Sが剛、新人の東（男子）ら5名を連れてくる。朝礼後すぐに楽画会を開始する。午前中に、東と剛が筆者の顔に水性ペンで歌舞伎役者のような模様を描きたいと申し出たため快諾した。お礼に筆者は、東に蝶の絵とファッションブランドのロゴをそれぞれ腕に描き、剛の左胸には天使の羽根、右腕にサソリを描いた。剛は午後からダンスの動画を繰り返し見ながら踊り、大きな声で歌っていた。そのまま一日が過ぎた。帰りがけに職員Sより、前回参加した身重の女子が出産したと報告を受けた。剛が大変喜ぶ。

お互いの体に絵を描き合う。これは筆者にとって大変うれしい出来事で、信頼関係が大きく構築されるきっかけと認識している。剛の言動が近頃安定してきたようだ。

**8月18日 大雨 室内気温21.5℃ 室内湿度61% 室内気圧1001.9hPa**

9時50分に法人本部より筆者へ、今日の参加者の到着が30分遅れると連絡があった。ひとりで三ツ屋にやってきた剛と、庭で雑談をしながら待つ。

剛、新人の田岡ら6名で楽画会を開始する。午前中、田岡と剛は少しだけ楽描きをしたが、ほぼ2階で遊んでいた。

昼食後、筆者は剛と一緒に食器を関連施設へ返却に行くと、地元のテレビ局が施設内を取材していた。その後パン屋に移動して30分休憩し、14時30分に三ツ屋へ戻る。それから剛は好きな歌手の曲に合わせてダンスをしていた。16時になり雨がひどくなる。16時15分に楽画会を終了する。

最近の剛は曲に合わせて繰り返し踊っている。よほどダンスが好きなのだろう。

**9月9日 快晴 室内気温26℃ 室内湿度64% 室内気圧1004.9hPa**



筆者は10時に三ツ屋へ到着。剛、伊藤ら7名で楽画会を開始する。職員はS。

伊藤が絵を描いて遊んでいる筆者に対して「親方、親方」と言って近寄ってくる。剛も真似をして筆者に近寄ってくる。午前中、剛は特に何もせずに過ごす、今日はどことなく機嫌が悪そうだ。午後になると、剛の旧友（男子）が三ツ屋に遊びに来るという情報を入手した職員がやってきて、剛を近くの公園に連れ出した。直後にやって来た友達は、16時まで三ツ屋にいたが剛と会えず、くやしそうに帰っていった。16時30分に剛が三ツ屋に戻り楽画会を終了した。

剛に会いたがっていた旧友は、決して悪い仲間には見えなかった。しかし、会わせてはいけない深い事情があるのだろうか。午前中、機嫌が悪かったことと何か関係があるのだろうか。

**9月15日 晴 室内気温23℃ 室内湿度46% 室内気圧1009.0hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着。剛、田岡ら5名を初参加の職員A（女性）が連れてきた。さっそく田岡が前髪を洗面台でカットして、そのままリビングに戻ると、職員Aが田岡に掃除をするように指示をする。しかし田岡は無視をして掃除はしない。職員Aは剛を誘い一緒に掃除をしていた。その後、剛は少し文字を書き、時折ダンスをした。11時30分になると田岡と剛が、じゃんけんをして負けたほうの腕を叩くゲームを始めた。次第に真剣に殴るようになってしまったため、筆者は「殴るな。肩やのどは絶対にやめよ」と強く注意喚起をした。20戦ほどやったところで筆者があと2回で終わるように促した。遊び終わると、二人ともかなり両手が震えていた。

昼食後13時30分になり参加者全員でパン屋に行くついでに田岡、剛と筆者の3名で食器を返却する。15時に三ツ屋へ戻り活動を再開する。剛は汗をかきながらダンスに熱中していた。16時に楽画会は終了。

新しい職員Aは、参加者へ「〇〇をなさい」と指示をしていた。しかしすべて無視される。じゃんけんゲームの時、危険を察知した筆者は、初めて強く言葉で注意喚起をした。その瞬間は少し手加減をしたようだが、すぐに忘れてしまう。彼らの行動を言葉先行でコントロールしようとしても大抵うまく

いかないことを痛感した。

**10月6日 雨 室内気温26℃ 室内湿度70% 室内気圧1011.4hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着。直後に剛が歩いて到着した。新しい職員P（男性）、主任職員O（前日まで心労で長期休暇）、剛ら5名で楽画会を開始する。剛は午前中ダンスをしていたが、昼食前にこっそりスクランブルエッグを自分で作り食べる。昼食後13時30分に全員でパン屋に行く。戻ってきてすぐに剛は再び大きな声で歌いながらダンスをしていた。15時30分に楽画会を終了する。

**10月27日 晴 室内気温24℃ 室内湿度49% 室内気圧1010.6hPa**

筆者は三ツ屋へ10時に到着。すでに女性職員Aが剛ら4名を連れて三ツ屋に到着していた。常連のまほ（女子）が午後から参加予定。剛は活動をしな。午後13時30分から全員でパン屋に移動する。30分で三ツ屋に戻る。まほは午後に来なかった。残念がつている剛は、ふてくされて和室で寝てしまった。16時に楽画会を終了する。

**11月24日 快晴 室内気温22℃ 室内湿度51% 室内気圧1013.0hPa**

筆者は三ツ屋へ9時45分に到着。剛、伊藤、原、田岡の4名で楽画会を開始する。10時20分より伊藤だけが絵画活動を始めた。剛ら3名は2階に上がり、出会い系サイトを使って見ず知らずの女子と話をしている。原と田岡は昼食もとらず交流に熱中していた。剛はいけないことをしているという自覚を持っているのか、1時間ごとにリビングに下りてきて本部の職員と筆者の顔色をうかがいに来る。14時になると剛と伊藤がパン屋へ行こうと筆者を誘ってきた。30分で三ツ屋に戻り、16時まで何もすることなく楽画会を終了した。

**12月8日 曇り 室内気温21℃ 室内湿度47% 室内気圧1000.6hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着。原、田岡、伊藤を女性職員Aが連れてきた。男性職員Pも同行する。剛は先週から愛知県三河地方の実家へ逃亡しているため不参加。逃亡理由は彼女と別れて心に大きな傷ができたから。剛がいない楽画会は大変静かだと参加者全員が口にしていた。

**2018年1月12日 快晴 室内気温25℃ 室内湿度**

#### 40% 室内気圧1012.2hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。剛はすでに到着していて庭で待っていた。本部職員と女性職員Aが伊藤、田岡、新人のこうき（男子）を連れてくる。朝礼はなく、さりげなく楽画会を開始するが、元気があふれているのは伊藤だけ。何やら今日は全体的にぐったりした参加者が多く見受けられる。午前中に何もなかった剛が、昼食後に職員の携帯電話を借りてダンスの動画を見始めた。そして携帯電話を借りたまま返そうとしない剛に対して、筆者は「1時間だけ見たら返しましょう」と条件をつけた。1時間20分後、全く返却する様子がないため筆者は「剛のダンスが見たいです」と言うと、携帯電話を返却してニコニコしながら踊り始めた。13時40分に全員でパン屋へ移動。14時30分に三ツ屋へ帰宅。剛は16時の楽画会終了までダンスをしていた。

剛が少しわがままになってきた。それはダンス動画が見たい、踊りたいという欲望によるもので、そのため周囲に迷惑をかける。楽画会の環境悪化を防ぐために、一定の条件が必要ではないか。

1月26日 朝大雪のち快晴 室内気温26℃ 室内湿度56% 室内気圧1000.9hPa

雪のため自宅を7時30分に出発した筆者はかなりの渋滞の中、なんとか10時に三ツ屋へ到着する。本部職員が伊藤、こうきを三ツ屋に連れてくる。剛はグループホームから歩いてくる。剛とこうきは職員と雑談をしているが、急に剛の口調が荒れていった。30分ほど経過して二人は雪だるまを作るために庭へ出た。外に移動しても剛は攻撃的な発言が多く、丸めた雪を近隣工場へ投げ込むなどの乱暴な行動が目立つ。昼食後、荒れている剛に伊藤が耐えきれなさそうだったため、全員を13時30分にパン屋へ連れて行き、気分転換を図った。大声を出しながら歩く剛に対して、いらだつ伊藤。パン屋の職員に苦情を申し入れるが、「がんばれ」と言われ伊藤はパニックに陥った。次に本部職員に申し入れると、三ツ屋に戻って話を聞くと言われた。20分後に三ツ屋へ戻ると、剛とこうきは外で雪だるま作りを再開した。本部職員が約束通り伊藤の苦情を聞いていたが、怒りがおさまったのか伊藤は途中で話すことを止めてしまった。

外にいる二人は突然、スコップを持ち出し三ツ屋

の前の凍結した道路に、お湯や水をかけながら氷を除去しはじめた。筆者は本部職員に、素晴らしい自発的行動であることを理事長へ報告するよう密かにお願いをした。伊藤もすぐに外へ出て手伝い始めた。16時に楽画会を終了した。

午前中の剛の態度は楽画会の活動環境を悪化させ、伊藤に不快感をもたらした。しかし自発的に凍結道路の整備を始めた剛たちの行動は、伊藤を元気にさせた。通りすがりの人たちから「ありがとう、助かるわ」と言われた剛たちの満足した表情を見て筆者は、障害者の主体的活動が社会の支えとなる瞬間を目にした。過度に褒めることなく筆者は彼らを見守った。



記録画像3 氷を半分溶かしたところ

2月9日 晴 室内気温25℃ 室内湿度39% 室内気圧1016.7hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。今日は新しく真（男子）が参加。剛ら4名と女性職員Sで楽画会を行う。剛、真はSと雑談をしている。11時になると、本部職員2名が2週間前に医療刑務所から出所したサキ（女子）を連れてきて楽画会に参加させた。サキは熊本県のご当地キャラクターの「くまモン」を描き始めた。12時になり、三ツ屋で楽画会参加者と一緒に昼食もとることになった。剛ら3名の男子はサキに気配りをしながらも覇気がない。

12時15分に理事長が三ツ屋に到着し、来年度より16歳から20歳までの就労訓練ができない子どもたちのための生活自立プログラムを始めると筆者に告げた。そのため、今まで隔週でやっていた楽画会を毎週開催できないかと打診された。筆者は理事長に、楽画会で制作したものはあくまでもコンクールに出

すことが目的ではないことを確認した上で承諾をした。12時30分、三ツ屋を離れる間際の理事長より「この子たちにとって一番大切なことは遊びであるため、楽画会は遊びとしてやってほしい」と筆者に指示があった。

午後から各自活動をしたが、13時45分になり元気のない剛ら3名をパン屋へ連れて行く。15時に三ツ屋に戻った時には機嫌は良くなっていた。15時15分にサキが「トイレに行く、空気を吸ってくる」と筆者に申し出た。5分経過して職員Sがトイレにサキがいないことに気付き、逃亡したことがわかった。緊急連絡網を使い、多くの職員で探し始める。とりあえず15時20分に急遽終礼をして他の参加者を帰宅させた。16時30分、公園のブランコに座っていたサキを職員が発見し、そのままグループホームへ送り届けた。17時30分に解散をした。

突然やってきたサキに剛たちは戸惑ってしまったため、元気がなかったのだろうか。サキに気を遣う職員の態度や、付き添ってくる職員の人数を見れば、サキが要注意人物だということはすぐわかる。凶悪な雰囲気醸し出していない普通の子に剛たちが戸惑うのは仕方のないことだろう。

逃亡する直前に、鋭い目つきをしたサキに気付きながらも、軽率な対応をしてしまった筆者に落ち度はある。しかし、サキの状態を筆者が事前に知っていれば、剛たちにいつもと違う楽画会になることを説明することはできた。もしかすると、2週間前の出所と、職員の対応日数が浅いことを考慮して、サキの参加を受け入れなかったかもしれない。

新人を楽画会に迎え入れる時、安定した環境を維持するためには準備が必要である。もしも、美術活動は障害者にとって仲良く協働できる“気軽に組み入れるもの”だと支援者が考えているのなら、知らぬ間に障害者間に目に見えないひずみを生じさせてしまうだろう。

**2月16日 晴 室内気温22℃ 室内湿度33% 室内気圧1002.4hPa**

筆者は9時50分に三ツ屋へ到着。剛、伊藤、真ら4名で楽画会を開始する。職員はS。剛は体調が芳しくない。伊藤と筆者だけが午前中から制作をして、剛ら男子3名はスマートフォンで動画を見ている。

昼食をほとんど食べず体調が悪化した剛は、1階のリビングに椅子を並べて寝ていた。15時40分に楽画会を終了した。

真が楽画会に参加するようになってから、剛の様子が変だ。真との人間関係において何か問題が生じたのか。

**3月9日 晴 室内気温24℃ 室内湿度66% 室内気圧1002.2hPa**

筆者が10時に三ツ屋に到着。新しい職員の大城(男性)が、こうきを連れて来た。剛もすでに徒歩で到着している。すぐに楽画会を開始する。剛と大城、筆者は昼まで楽描きをした。昼食後は、全員和室で横になった。のち13時45分にパン屋へ移動して、1時間後に三ツ屋へ戻る。大城が剛とこうきになぞなぞを出して遊び始めた。15分ほどでやめて、そのあと再び全員で和室に移動し、ごろごろして過ごした。15時30分に楽画会は終了した。

初めて楽画会を担当した大城は、参加者に対してかなり冷静な対応をする。気遣う剛が「毎週、三ツ屋へ来てほしい」と大城に申し出るも、無視された。剛は急激に落ち込む。

**4月13日 晴 室内気温25℃ 室内湿度28% 室内気圧1014.4hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着。本部職員と新しい職員I(男性)が本日の担当。新人のヒロ(男子)、つとむ(男子)が加わり、こうき、真、剛と楽画会に参加する。なんと朝礼と同時に全員が一斉に絵を描き始める。50分ほど経過すると真がサッカーをしたいと言い出す。全員で近所の公園へ遊びに行く。30分ほどサッカーをして三ツ屋へ戻る。休憩をして11時50分に昼食をみんなで食べる。午後は全員雑談をしていたが、13時30分になり、パン屋に行きたいと剛らから要望が出た。1時間ほどパン屋に滞在して三ツ屋に戻る。そのあと剛はダンスをしていた。15時30分に楽画会を終了する。

朝の絵画活動を全員で一斉に行ったことに筆者は大変驚いた。新人のヒロの存在が楽画会の雰囲気を変えたのだろうか。

**4月20日 晴 室内気温22℃ 室内湿度41% 室内気圧1010.1hPa**

筆者は9時55分に三ツ屋へ到着。職員3名(大城とI、新しく配属された女性)が剛、真、ヒロ、つ

とむを連れてきた。朝礼を行うために剛が号令をかけようすると、真、ヒロ、つとむが起立しなかった。剛が声を荒げて立つように言うが誰も従わない。そこで筆者が「『皆さん立っていただけますか。朝礼を始めますので』とお願いしてみたらどうですか」と剛に促すと、素直に復唱し、3名はすぐに起立した。楽画会を開始する。1時間後にもう一人参加した。午前中はパン屋の値段表をみんなで制作する。ヒロにパンの名前を、剛に価格を、それぞれ30枚ほど書いてもらった。筆者はヒロが書いたパンの名前に少し装飾をした。11時に突然、真が散歩に行くと言い、ヒロを連れて出た。5分後に帰る約束だったが40分後に帰ってきたため大城が怒る。すると真は表情を変えることなく無言でグループホームへ帰ってしまった。大城が後を追って迎えに行く。真が戻って全員で昼食をとった。午後から真、こうき、剛がパンの販売を手伝うため職員Iらと共に三ツ屋を出た。15時に三ツ屋に戻り、再びパンの値段表を全員で27枚制作した。16時になり終礼をして楽画会を終えた。

大城の参加者に対する口調が、かなり強い。よって、参加者は決して大城に逆らおうとしない。しかし大城のいないところでは悪口を言う者が多く、ストレスなのか他の職員に対して暴言が目立つ。

**5月18日 快晴 室内気温22℃ 室内湿度60% 室内気圧998.9hPa**

筆者は10時に三ツ屋へ到着。職員は4名。今日の参加者は剛、ヒロ、つとむ、こうき。すぐに朝礼をして楽画会開始。玄関横の和室がきれいになって開放されている。さっそく、そこで参加者全員が横になった。慌てた職員Hは筆者に「どうしますか」と尋ねる。筆者は「一緒に寝てもらって結構です」と言ったが、Hは横になっている4名に「絵を描け」と強い口調で指示をしたが状況は変わらない。雰囲気を変えようと11時に筆者は野球用具を持って、みんなを公園に連れ出すことにした。こうきがピッチャー、剛がバッター、職員を含めた他7名は守備にまわった。途中でピッチャーをヒロに交代する。いい球を投げるので剛は打てない。Hは張り切りすぎて両太もも裏がつる。30分ほど野球を楽しんで三ツ屋に戻る。

今日から時間外の食事は禁止となったが、腹の

減った剛はこっそり台所で冷凍おにぎりをレンジで温め食べていた。12時になり、「約束通り時間までよく待つことができました。これからお昼ご飯を食べましょう」と筆者が全員に声をかけると、苦笑いをしながら剛が筆者のところにすり寄って来た。みんなで準備をして昼食をとった。

午後になると4名は各々楽描きをした。14時30分から30分ほど全員でパン屋へ行く。三ツ屋へ戻ると、剛はダンス動画を見ながら大きな声で歌い踊り始めた。15時40分に後片付けをして楽画会を終了する。

公園での野球は、参加者たちより職員の方が活発であった。時間は短かったが、その様子を見た参加者の活動意欲は確実に高まった。大人（支援者）が真剣に取り組む姿は子ども（参加者）のやる気を引き出すことが、よくわかった。

**5月22日 晴 室内気温24℃ 室内湿度51% 室内気圧1006.6hPa**

筆者は9時50分に三ツ屋へ到着。剛、こうき、ヒロ、つとむがいる。職員はHとI、大城。朝礼を速やかに行い活動開始。直後に真が来た。ヒロ、剛、真はだらだらしている。しばらくすると、ヒロと剛が机に敷いてある画用紙にブランドロゴを描き始めた。こうきはトイレに駆け込む場面が多く、大城は早退させることにした。大城がこうきをグループホームへ送っている間、ロゴを描き続けていた二人は10時30分になると真と共に3名で散歩に出かけた。筆者とIが運動用具を持って後を追う。行く当てもなく歩いて三ツ屋に戻る。10分ほどして真が再び剛とヒロの3人だけで散歩に行きたいと言いつたため、Iが30分で戻る条件で許可をした。お面を作っていたつとむが「あいつらは絶対に約束を守らない。信用してはだめだ」と声を荒げて我々に訴える。11時50分に大城が戻ると、勝手に散歩に行かせないでほしいとIに忠告した。約束の30分後に3名が帰宅する。すぐにみんなで昼食をとる。12時30分に剛、ヒロ、真が大城とIと一緒に大型ごみを捨てに処理場へ向かった。30分ほどで戻る。昼食後、筆者はパン屋から依頼されていた看板に仕上げニスを塗る。大城と剛、真、ヒロが再び1時間ほど散歩に出かけた。15時50分にヒロの号令で終礼をして楽画会を終了した。

筆者は今後、真を別メニューで他の参加者たちと隔離してほしいと法人本部へ申し入れた。ヒロを弟分として身近に置いておきたい真と、同じ学校に通っていた先輩後輩の関係である剛が、ヒロの取り合いをしている。やんちゃなそぶりを見せる真に惹かれているヒロは、まじめに生きようと引っぱる剛をうっとうしく思っているのか、剛の誘いにはことごとく従わない。剛は何かすっきりしない様子である。

6月15日 くもり 室内気温24℃ 室内湿度69%  
室内気圧1000.6hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。大城とH、こうき、ヒロ、つとむ、真がいる。真が自ら髪を切り、眉毛まで剃ってきた。朝礼をすると、ヒロは真にぴったりくっついていて、大城がすぐにこうきを連れて本部へ行った。10時30分になり、真が筆者と散歩がしたいと申し出る。30分という約束をして、ヒロと3名で出かける。11時に三ツ屋に戻る。ちょうどそのとき大城の代わりに本部職員がやってきた。近くの大通りから消防車が数台通り過ぎる音が聞こえた。ヘリコプターが上空を旋回していることに気付いた真は、再び散歩に出かけたいと筆者に申し出たため11時10分、本部職員に散歩の付き添い依頼をした。筆者が留守番をしていると剛がやってきた。剛は突然大声で歌いながらリビングでダンスを始めた。11時40分に散歩組に戻る。昼食後も剛は15時まで延々と歌って踊っていた。15時30分に楽画会を終了した。

時折つとむが真の行動に対して文句を言うようになった。剛はヒロに気遣うことを諦めて、そのかわりにつとむの苦情を聞く役に徹していた。

6月22日 晴 室内気温26℃ 室内湿度38% 室内気圧1001.4hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。Hと本部職員が剛、つとむ、こうき、真を連れてスタンバイしている。ヒロは本日、裁判所に呼び出されている。お咎めがなければ午後に三ツ屋へやってくる。朝礼を真が行い楽画会開始。Hが参加者全員に今日の目標を10項目挙げるように言うと、全員無視した。筆者がひとつだけ目標を掲げてみたらどうかと提案をすると、こうきが「一日一回誰かを褒める」と宣言した。急に真や剛が何やらぼそぼそ誰かを褒めているようだ

が、筆者は聞き取ることができなかった。さっそく散歩がしたいと真が言い、みんなでパン屋に行くことにした。前日、楽画会で筆者が作成したパン屋の看板を全員で設置した。ドライバーを使い、一人1本ずつ木ネジで看板を固定する。散歩をしていた幼稚園児が見に来る。剛とつとむは手を何度も振り、子どもたちの相手をしていた。しかし真は、子どもたちを空気銃で撃ち殺したいと何度もつぶやいていた。看板を設置後、店内で休憩して三ツ屋へ戻る。



記録画像4 全員で看板を設置する

昼食後、真が腕に絵を描いてほしいと筆者に願い出た。剛も同じように描いてほしいと上半身裸になり筆者のところへやってきた。首に黒人男性の肖像画を、腹にはブランドロゴ、腕には女性の肖像画を描くと、満足した表情をしていた。そこへ笑顔でヒロが帰ってくる(15時)。Hは終始参加者たちに目標を書くよう促していたが誰も書かなかった。15時20分になり、散らかった部屋を片付けるようにHが言うも、誰も従わない。15時30分になり筆者が「10分で片付けて掃除をしたら今日は終了」と言うと、みんなが一斉に動き出した。15時45分に楽画会を終了した。

今日は大城が休みであったためか、皆のびのびしているようである。しかし、Hの支援内容(目標を定めるなど)に、参加者たちが戸惑っている。特に剛のいら立ちが目立つ。少し言い方を工夫する必要



があるのではないか。

7月6日 雨 室内気温21℃ 室内湿度90% 室内気圧1000.8hPa

筆者は10時5分に三ツ屋へ到着。大城ら職員3名が、剛、ヒロ、真、つとむ、こうきを連れてくる。6月30日に剛、ヒロ、真、つとむ、伊藤をダンスコンテストにエントリーしたらしく、応募した動画をみんなで観た。朝



記録画像5 7月6日の楽画会の様子

礼後、剛を中心としてダンスの練習が始まった。3日前に台所のガラスが割れたようで（おそらくこうきが何かに怒って割ったらしい）、13時に業者が交換に来た。13時50分にガラスの交換が終わり、みんなでパン屋に移動する。ダンスの練習ですでおなが空いたのか、みんなでいろいろ食べ15時に戻る。その後、大城がダンスの練習中に破れた剛のズボンを縫った。15時40分になり後片付けをして16時に楽画会を終了した。大城から近々退社すると報告を受ける。

ダンスコンテストに応募したせい、剛をはじめ4名はダンスの練習に熱心だ。

7月27日 晴 室内気温25℃ 室内湿度58% 室内気圧1000.1hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。大城の勤務最終日。大城と本部職員が剛、真、つとむ、こうきを連れてくる。朝礼でダンスコンテストの結果が報告された。剛だけが2020年東京パラリンピックの開会式でダンス出場ができる強化メンバーに選ばれた。他の応募者が落ち込んでいないか大城に聞いてみると、ヒロが数日前から行方不明だと言う。

午前中は剛を中心に、つとむと真と一緒にダンスの練習に付き合っている。昼食後13時45分に見学者が来るが、剛はダンスの練習を止めようとはしない。14時30分から15時まで、みんなでパン屋へ行く。戻ると剛は再びダンスの練習をした。15時45分、後片付けと掃除を行い、終礼後16時に楽画会を終了した。参加者が帰宅した後、大城と1時間ほどダンスコンテストに関する経緯と今後の流れについて話し合っ

た。

楽画会は活動を強要させないことが大前提である。そのため筆者はコンテストに彼らが望んで応募したのかを確かめる必要があった。剛の今までのダンスに対する情熱は自他ともに認めるものではあるが、ヒロや真などはダンスを単なる遊びの一部としてしか認識していない。とすると、彼らを同じステージで競わせてしまえば、結果は明らかである。ヒロの行方不明になっている原因が、ダンスコンテストの結果と無関係だとは考えにくい。未来に光が差し込んだ剛にとっては、一日中ダンスの練習をしても足りないだろう。ダンスに対する認識が違う彼らをコンテストに応募させてしまう前に、もっと慎重な検討が必要だったのではないか。

8月10日 快晴 室内気温26℃ 室内湿度46% 室内気圧990.2hPa

筆者は10時に三ツ屋へ到着。本部職員が、新人2名を含め5名の参加者を連れて来た。朝礼のとき真が「今日は理事長が来るらしいから何か活動をしているふりをしよう」とみんなに促す。昼食後、大きな画用紙を補充しに来てくれた協力企業と共に理事長が来訪。剛がダンス強化メンバーになったことを祝福した。そしてこれを模範として、他の参加者の可能性を探ってほしいと依頼された。15時15分になり後片付けを始め、15時45分に楽画会を終了した。

今日は剛がいない。その理由を職員に聞くと、誰も詳細を知らない。前回の楽画会に不参加だったヒロも行方不明のままである。参加者たちに聞けば、「二人とも絶賛逃亡中で一す」と言うだけで、なんとなく喜んでいるように聞こえる。

9月14日 くもり

剛は8月24日のダンス強化レッスン直後より行方不明。ヒロも依然消息不明。

2020年8月7日

剛とヒロは愛知県東部の飲食店でアルバイトをしているという噂がある。

### Ⅲ 考察—言葉と環境の関係—

#### 1. 触法障碍児の支援に関する現状

そもそも触法障碍児を障碍別にわけて犯罪の傾向を調べようとしても、障碍の程度や個々の発育環境、



社会情勢などが大きく関係している場合も多く、事実上分類することは困難である。支援者は触法障碍児一人ひとりと対峙し、これまでのいきさつを考慮し彼らの意見に耳を傾けなければ、接し方は見えてこないだろう。とは言え、罪を犯してしまうおおよその非行少年たちについて児童精神科医の宮口幸治は、力のコントロールが十分に行えなくて傷害や破壊行為を引き起こしてしまう「身体的不器用さ」が見受けられることと、他者との会話が続かないことや思考の堅さなどによる認知機能の弱さを如実に感じて自暴自棄になることを指摘しており<sup>4)</sup>、丁寧に接しようと優しい言葉をかけるだけでは到底交流には至らないだろう。美術教育家のN.R. スミス(1929-1990)は子どもの活動全般に言えることとして「自己批判をするようになると、自分の仕事(表現活動)を投げ出してしまふ。投げ出したくなるのも彼ら自身の考えからきている<sup>5)</sup>」と述べている。だとすると障碍児も健常児も思い通りにならなければ活動を放棄してしまうと考えられ、すべての子どもが自暴自棄になる可能性を孕んでいるという認識を支援者は持つべきではないか。

日本の政府や経済界は1990年代半ばより、競争に勝ち抜くためにものごとの本質をつかみ、自ら行動することによって問題を解決していける人間像に近づくための課題を、教育改革の名のもとに青少年へ示した<sup>6)</sup>。もちろんこの高水準な枠組みから外れる者も存在し、少年犯罪の凶悪化、低年齢化が子どもの危うさとなって露呈した。そして、声かけ・相談(筆者の理解では対話も含む)・支援等といった社会の支えとなる眼差しを失い、「威嚇による抑止」が発動された経緯を持つ障碍児は、触法障碍児とカテゴライズされ、2000年の少年法改正により「責任の自覚」を制裁の重さによって知ることになる<sup>7)</sup>。急速な教育環境の変化に巻き込まれた被害者と言える彼らに今必要な環境とは、見守ってくれる信頼できる支援者の存在であり、うわべだけの対話が行える場ではない。

知識、思考、経験を獲得する認知能力の可視化はかなり早い段階から重要とされている。可視化・数値化しにくい非認知能力(社会情動的スキル)を育むことは、その人の人生を長い目で見た時、あとでジワジワ効いてくる「あと伸びする力」を養うこと

だと注目される近年<sup>8)</sup>、OECDは双方を包括的に使用することが重要であると論じている<sup>9)</sup>。障碍児が自分の能力の弱さを実感し、そこから犯罪につながる行為に発展してしまった時、自分では解決できそうもない無力感を痛感していることだろう。何とか覆水を盆に返すために支援者がすべきことは、再び水を注いでもこぼれないよう盆を修復すること、すなわち本来就学前に行うのが望ましいとされる非認知能力の育みを、幅広い年齢層の触法障碍者たちともう一度練り直すことである。

精神、知的理解等が発達途上である彼らは、身体的には問題なく健常者と見紛う場合が多く、支援者はつい健常者と同様の対応に陥ってしまう。特に言葉による交流を優先する支援環境は、彼らの理解不足を招く。いくら支援者がコミュニケーションを確立しようと様々な言葉がけを試みたとしても、目に見えない情報量の多さが彼らを苦しめる。障碍児支援に精通している徳永豊は、障碍児はコミュニケーションが成立しない場面でも行動の自己調整を行っているため、支援者は適切な自己調整が行える課題設定(環境も含む)を示すことで、子どもの行動の自己調整の発達を促すコミュニケーションは成立すると述べている<sup>10)</sup>。しかし、せっかく示した余白に、支援者自らコミュニケーションをさらに深めようと言葉を詰め込んでしまえば、また振り出しに戻ってしまう。

## 2. 実践結果の分析

### (1) 筆者が剛との関わりの中で意識したこと

①朝のあいさつは、握手をしたり、抱き合ったり、時には軽くパンチを繰り出したりとスキンシップをするだけで「おはよう」などの言葉はほとんど使わなかった。

②筆者は「がんばれ」というような励ましの言葉や褒め言葉はかけなかった。よほど筆者が見て感銘を受けた時のみ深くうなずくようにした。そして言葉による叱責は極力行わなかった。

③注意喚起は根気よくジェスチャーのみで何度も繰り返して試みた。

④参加者全員に伝達事項がある場合、筆者は短い言葉でゆっくりと話した。そして必ず敬語を使った。

## (2) 剛が他者と関わる際の特徴

- ①女子に対して特に優しく接する傾向がある。「かわいいね」「素敵だよ」とはっきり意志表示をする。ただし決して髪の毛等身体に接触しようとはしなかった。
- ②職員から生活態度について指導をされても一定の理解を示しながらはきはきと返事をするため、より深く教育的関わりを持とうとする職員が多かった。
- ③具合の悪い人や、困っている人を見ると積極的に看病をした。また幼児との交流も好きなようだ。時間の許す限りとことん関わろうとするため、相手が少し警戒してしまう場面も見受けられた。

## 3. 剛が他者と信頼関係を構築するための鍵

剛がダンスに興味を持ったのは、楽画会に参加して間もない頃である。筆者は剛に、楽画会では自分のやりたいことがあれば、犯罪以外何をやってもいいと伝えていたため、大声で歌い・飛び跳ね・踊ることを黙認してきた。剛の歌声は建物の天井をも突き破る勢いだ。また、気分よく踊れば振動が建物全体に響く。剛が情熱をもって活動すると、そのエネルギーの一部が時として他者に迷惑因子として襲いかかる。

週れば三ツ屋での協働生活の初日、剛は誰に対しても明るく接することができて、相手に対して気遣うこともできた。その生活態度は常に一定で変わることがなかった。おおよその参加者から特に苦情は出ることがなく、少し苦言を呈していた伊藤も、次第に剛の情熱を認めるようになっていった。職員も騒音が隣接する家にまで伝わらない限り、剛のダンスを応援していた。



記録画像6 ダンスを踊る剛と制作する参加者

## IV 結論—環境と言葉の関係—

### 1. その気になった時の行動力

もし剛の周囲に対する思いやりがなければ、表現活動ができる環境を誰も剛に与えてくれなかっただろう。剛が生んだ迷惑因子は、自らの人間性がつくりあげた他者との信頼関係により確実に相殺している。そして剛が獲得した表現環境は他の参加者の自発的な遊びに火をつけた。

法人が判断したのか、職員の大城が判断したのかは別として、剛をはじめ4名をダンスコンテストにエントリーしたことは全員の士気を高めた。応募後のまだ審査結果が出ていない時の楽画会は、ズボン破るほど練習に励む剛の姿が見られ、全体的に自発的及び活発であったと言える。剛に触発されたヒロらも一日中踊り続け、楽画会の無い日も毎日練習をしていたという。これは自発的な遊びが主体的な学びへと進歩する兆しであった。しかし結果が出た途端、合格した剛は、寝食を忘れダンスに没頭するようになっていったが、落選したヒロらは急激に情熱が冷めてしまった。

### 2. 重圧に負けてしまう

近年、障害者の活躍を目にする機会がメディアを軸に多く見受けられる。障害者芸術がコンクール等により各地で注目される中、評価されなかったことが原因で制作意欲を喪失してしまう例は多い。高い評価を受けた直後から制作できなくなった障害者がいる、という話も筆者は耳にする。三ツ屋のダンス練習に置き換え想像してみれば、ヒロも剛もダンスをしたいという意欲は高かった。しかしダンスコンテストの結果、ヒロは落選して自信を失った。一方、剛は高く評価されて幸せなはずだったにもかかわらず、ダンス強化レッスンで自分の実力の無さを痛感してしまい、自信喪失の挙句逃亡してしまった。また、周囲からの期待の重さに耐えられなくなったとも考えられる。せっかく手にしたチャンスを放棄してしまうとは、普通に考えればもったいないことで、剛を知る者であれば「腹をくくって頑張れ」と激励の言葉をかけたくなるだろう。

頑なに言葉に頼らない交流を望んだ筆者に、ダンスを踊るという手段で応えようとした剛ら4名は、

主体的な学びにまで達するかもしれない自発的な遊びを獲得した。しかし、そのもろくて貴重な産物を社会にさらした途端、粉々に砕け散ってしまったのである。

## おわりに

楽画会に新人参加者を招く時、よくありがちな自己紹介を筆者は廃止している。そして何かを作り、疲れたら横になって休憩するありのままの筆者を常に見せ続けた。その理由は、自己紹介は仮の姿を装う機会に過ぎず、過剰な言葉や笑顔、監視の目を持って関われば、お互いの存在を装飾した額縁越しに見てしまうからだ。支援者も参加者も本当の姿を早く表し、そこでお互いを気遣う関係さえ構築できれば、自発的な遊びに専念できる環境はおのずと生まれる。ただし、その環境を早急にアップグレードさせようとすれば、それは普通学校等で多く見られる他者と成果を比較する教育的アプローチに近づいていく。

筆者は冒頭で、支援者が彼らと時間を共有しながらとにかく気長に一举一動を見守ることを支援の第一歩として、その中から表出したわずかな自発的な遊びを見逃さないことが支援の目的であると述べた。実践後にわかったことは、自発的な遊びの新芽を支援者が大げさに褒めて、ちぎりとらないことである。新芽をもぎ取ってしまわなければ、自発的な遊びの蓄積は表現することへの自信となり、それが主体的な学びにつながっていくだろう。剛がダンスをしたいという自発的な遊びを見つけた時、職員はワクワクする気持ちを抑えきれなかったのかもしれない。主体的な学びの遠い果てにある彼らの社会復帰を目指して、筆者はもう一度始めからやり直す。

## 注

- 1) 近年告示された幼稚園の「教育要領」、小学校から高等学校までの学習指導要領（図画工作科および美術科）の総則に明示。
- 2) 戸田雅美ほか『保育学講座3 保育のいとなみ—子どもの理解と内容・方法—』日本保育学会編 東京大学出版会 2016年 pp.65-67
- 3) 文部科学省『幼稚園教育要領』2008年 p.23

- 4) 宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』新潮社 2019年 pp.74-86
- 5) ナンシー R. スミス、上野浩道訳『子どもの絵の美学—イメージの発達と表現の指導—』勁草書房 1996年 p.65
- 6) 行政改革委員会『規制緩和と小委員会報告書』「創造で作る新たな日本」1995年、経済団体連合会『グローバル化時代の人材育成について』2000年3月他
- 7) 佐々木光明他、刑事立法研究会編『更生保護制度改革のゆくえ—犯罪をした人の社会復帰のために—』現代人文社 2007年 pp.235-236
- 8) 大豆生田啓友、大豆生田千夏『非認知能力を育てるあそびのレシピ—0歳～5歳児のあと伸びする力を高める—』講談社 2019年 pp.11-12
- 9) 遠藤利彦「非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書」国立教育政策研究所 2017年
- 10) 徳永豊『重度・重複障害児の対人相互交渉における共同注意—コミュニケーション行動の基盤について—』慶応義塾大学出版会 2009年 pp.14-15